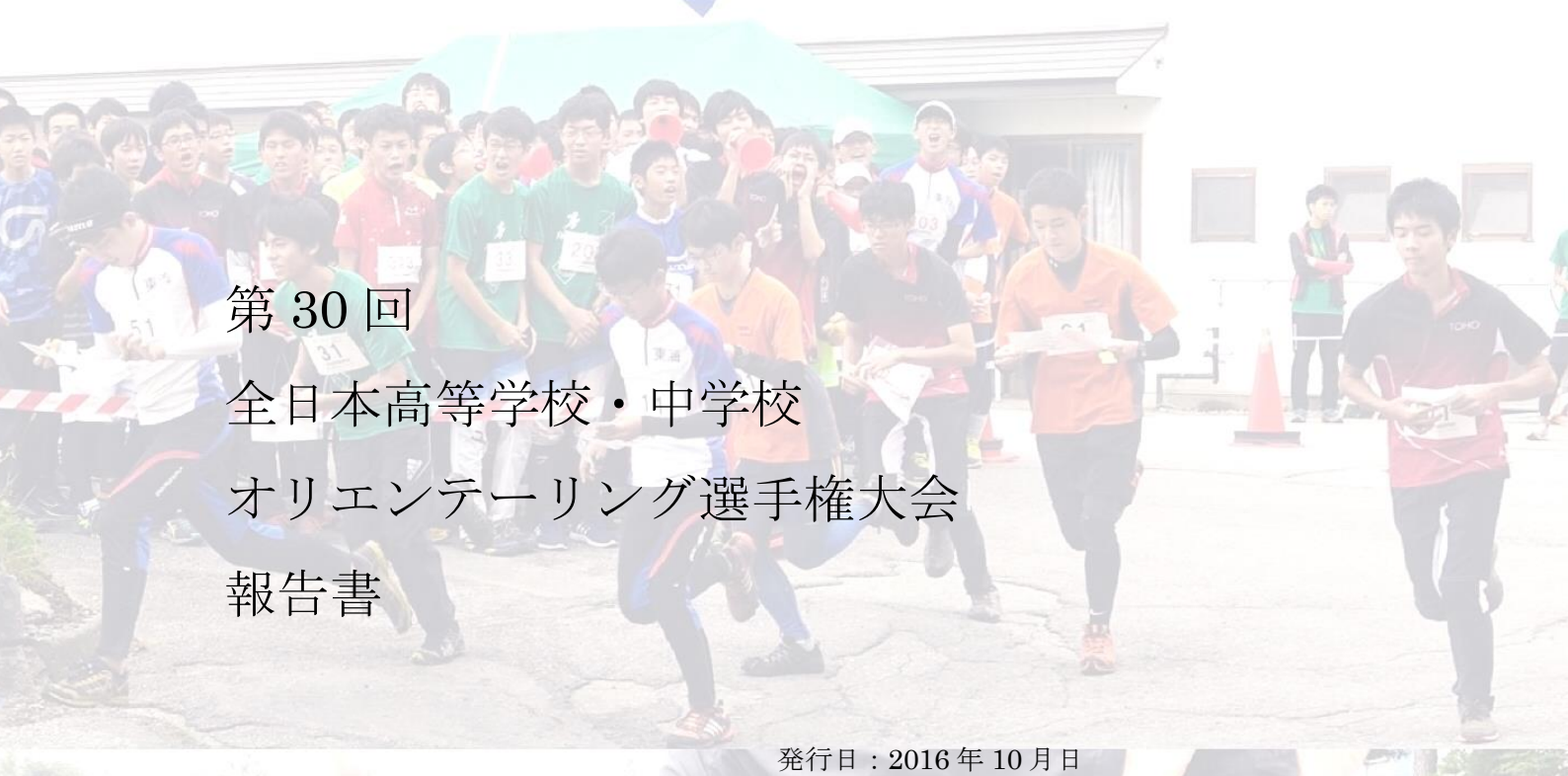


第 30 回
全日本高等学校・中学校
オリエンテーリング選手権大会
報告書

発行日：2016 年 10 月日
発行者：第 30 回全日本高等学校・中学校オリエンテーリング選手権大会実行委員会
発行責任者：吉澤　雄大(実行委員長)
編集責任者：大田　将司(広報責任者)

■期日：2016 年 9 月 9 日（金）～11 日（日）
■場所：長野県富士見町
■会場：ジュネス八ヶ岳
■主催：全国高校生・中学生オリエンテーリング連盟 OS 会
■主管：第 30 回全日本高等学校・中学校オリエンテーリング選手権大会実行委員会

実行委員長：	吉澤　雄大	(慶應義塾大学 3 年)
運営責任者：	晝間　悠生	(慶應義塾大学 2 年)
競技責任者・コース設定者：	佐藤　遼平	(東京大学 2 年)
渉外責任者：	坂梨　敬哉	(慶應義塾大学 3 年)
会計責任者：	長井　健太	(東京農工大学 2 年)
広報責任者：	大田　将司	(一橋大学 2 年)
イベントアドバイザー：	戸上　直哉	(東京工業大学 2015 年度卒)
選手権クラスコントローラー：	高村　卓	(上尾 OL クラブ)

■後援：　日本オリエンテーリング協会
長野県オリエンテーリング協会
日本学生オリエンテーリング連盟
多摩オリエンテーリングクラブ
富士見町教育委員会

■協賛：　多摩オリエンテーリングクラブ
O-support

～目次～

1.ご挨拶

（吉澤　雄大　第 30 回大会実行委員長より）

2.個人戦講評，団体戦講評，総評

（佐藤　遼平　第 30 回大会競技責任者・コース設定者より）

3.アンケート集計結果

4. 公式成績表

5.大会役員

第 30 回　インターハイ
マスコットキャラクター「ふじみん」
（デザイン　山岸夏希）

1. ご挨拶

第 30 回大会実行委員長　吉澤雄大

第 30 回全日本高等学校・中学校オリエンテーリング選手権大会にご参加いただき誠にありがとうございました。大きなトラブルもなく競技が成立し、晴天にも恵まれ非常に良い大会になったと思っています。また選手の素晴らしい走りを傍で見て運営者一同感激いたしました。

今年は大会を富士見の森で行いました。このテレインを選んだ理由はいくつかありましたがそのうちの一つにテレインの質があります。入った方は分かると思いますが富士見の森は広大で大変走りやすく爽快なテレインです。インターハイで使うのに大変適していると思いました。

インターハイが中高生の最大の大会である以上、最高の舞台を用意するべきだと考えています。今年はオンラインコントロールを久々に利用し、会場の使い方もかなり工夫しました。個人戦 ME コースはこの 10 年で（代替開催の全日本大会と雪で中止になった駒ケ根を除くと）最長となりました。中高生のコースで 6km を超えることはあまりなく、全国 1 位を決める大会にふさわしかったのではないでしょうか。

また個人戦選手権では最後に陸上競技場の手前の斜面を登るときに、団体戦では駐車場付近の長いスペクテーターズレーンでチームのみんなの応援している声が聞こえたと思います。チームで一体となって戦うことの素晴らしさを感じて頂けたでしょうか。

併設大会にも 2 日で約 200 名の方にご参加して頂きました。共催をしなくてもこれだけの方にご参加頂けたことは驚きです。開かれたインターハイ、盛り上がるインターハイという姿に近づいているのではないかと感じております。また同時に中高生に対する注目も上がっていると感じます。

個人戦 ME ではウイニングタイムの 55 分を 1 位の原選手は叩き出しました。また 1 時間を切る選手も続出しました。傾斜が緩く速度が出やすいとはいえ、これだけのタイムを出せるのは大変立派だと思います。高校生のレベルが上がっていることを感じました。翌日の団体戦では麻布高校が優勝しました。この 3 年間で高校選手権校は東海、桐朋、麻布と変化しました。本来あるべき拮抗した戦いとなっているように感じます。3 校に限らず、お互いに切磋琢磨してさらに高みを目指してほしいと思います。

その一方で予定が合わず、2 つの高校が出場できなかったことは残念です。高校生というのは学校行事に縛られてしまう環境なのかなと考えており難しいとは思いますが可能な限り日程などを調整していきたいものです。また今回は参加には至らなかったものの青森県や北海道からもインターハイに問い合わせが来ていたこともここに記しておきます。より多くの学校が出場できる仕組みを作っていきたいと考えています。

本大会では渉外活動や宿泊、それにバス、資材・会場の提供などを富士見高原リゾー

ト様に大いなるご協力をいただき、大会準備から当日の運営まで大変スムーズに行うことができました。運営者一同、感謝申し上げます。また地図修正を行っていただいた東京オリエンテーリングクラブ様、商品の提供して頂いた O-support 様、メダルを提供して頂いた多摩オリエンテーリングクラブ様にこの場を借りて御礼申し上げます。

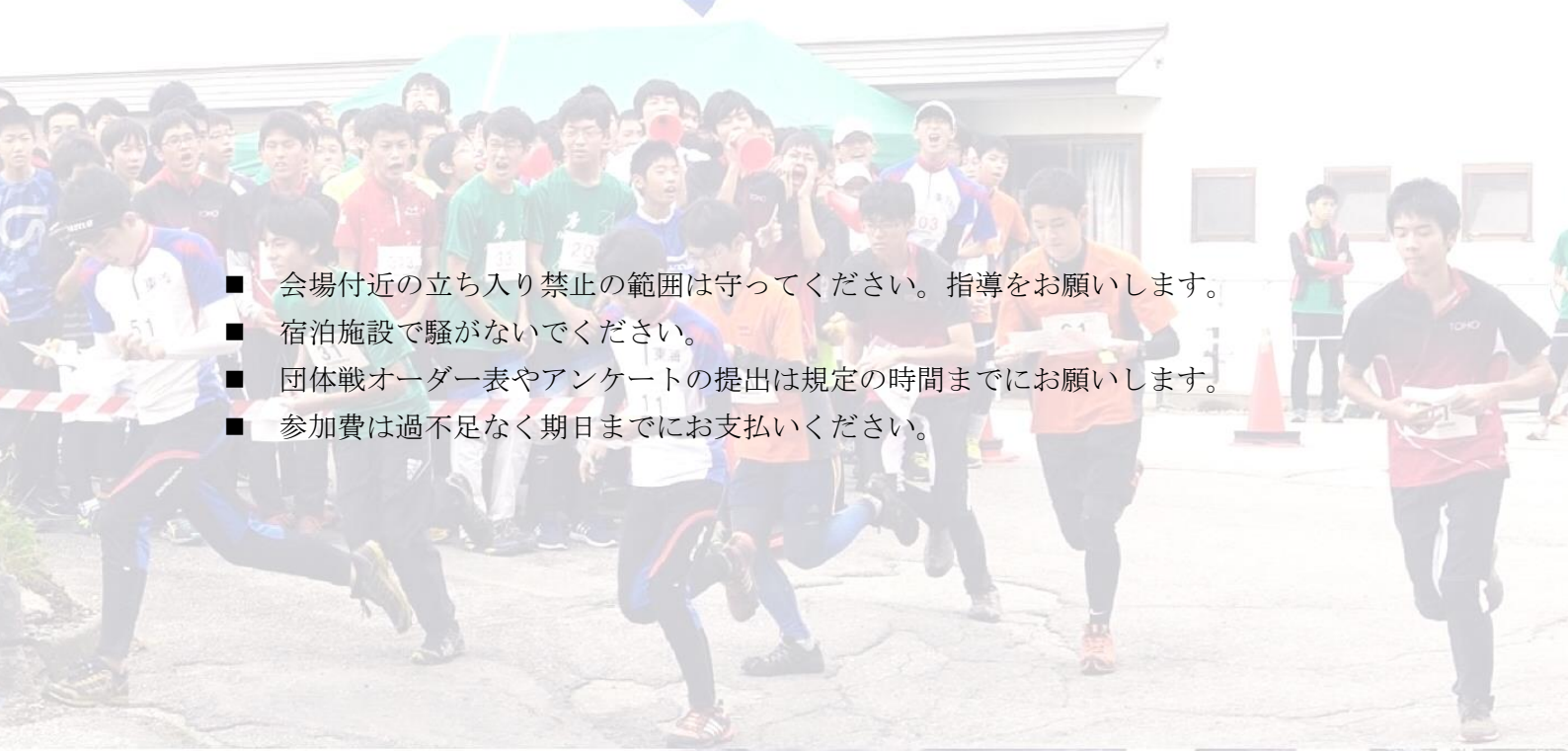
以上を持ちましてご挨拶とさせていただきます。これからも中高生の活躍に目を向けていただければと思います。そしてインターハイを来年度以降もよろしくお願いします。

今年のインターハイの特異な点をあげてみたいと思います。

- セレクションに関西 OS 定例会を導入しました。関東の OS 定例会があるのだから関西もということでした。大会には人数も集まり概ね好評だったと思われますが運営の負担が大きいなどの課題もあります。
- 参加者の宿を部屋の関係上、大部屋にしました。これまでは一人部屋もしくは二人部屋のことも多かったのですが、ご理解を頂ければと思います。
- 個人戦選手権クラスの選手の隔離を行いました。陸上競技場がゴールと会場を兼ねていること、また一般クラスのスタート時間から情報伝達の可能性からこのような措置を取りました。以降の大会でも十分にありえると思われます。
- 団体戦はテープ誘導箇所が多くなりました。交通量の多い道路の横断の場合タイムロスが発生する可能性及び危険性を考えた結果、渡る場所を限定させることとしたためです。本大会では誘導を無視する選手が続出しました。各校誘導についての指導をよろしくお願いします。
- 指摘があったため、コーチ・顧問の参加費を下げました。
- 3 連休での開催ではなく普通の土日の開催となり、金曜日に学校が終わってから来ていただく、もしくは公欠をとるという形をとっていただきました。これは CC7 によって 3 連休が先に埋められてしまったことや、そもそも各校の予定がなかなか合わなかったためこのような形となりました。金曜のスケジュールには悩みましたがテクニカルミーティングを 9 時過ぎには終わらせることができ、コンディションに影響しない範囲に収めることができたと考えています。一方で遠方からの参加を考えるとあまりこの形を取ることは望ましいとはいえず、来年度以降、2 連休での開催は各校の日程が合わないなど、やむをえない場合に限りたいと考えています。
- JOA からの後援を受けました。これに伴い一部の選手の特例で全日本 E 権が与えられました。来年度以降もこのシステムが継続されるのかはこれから議論となるでしょう。

今回の大会で見られたものに対する注意です。

- 会場で観客が選手と並走することは危険ですのでやめてください。翌年以降プログラムに記載すべきと感じました。



- 会場付近の立ち入り禁止の範囲は守ってください。指導をお願いします。
- 宿泊施設で騒がないでください。
- 団体戦オーダー表やアンケートの提出は規定の時間までにお願いします。
- 参加費は過不足なく期日までにお支払いください。

2－1. 個人戦講評

第 30 回大会競技責任者・コース設定者 佐藤　遼平

ME クラス

ME クラスでの使用範囲は全体的に走行可能度が高く、尾根沢が複雑に入り組み、現在地の特定が難しいエリアであった。

コース組のコンセプトとしてあったのは、技術力、体力、精神力の全てに長ける総合力の高い選手が勝利できるコースであること。また、高校生があまり体験する機会のないロングのコースに近いものであること。緩急のあるコース設定を目指した。その結果、序盤はコンピの間をミドルレッグでつなぎ、中盤の勝負ロングレッグ、後半は難易度は抑え目ながら、集中力を欠くとミスをするレッグが続くという流れになった。

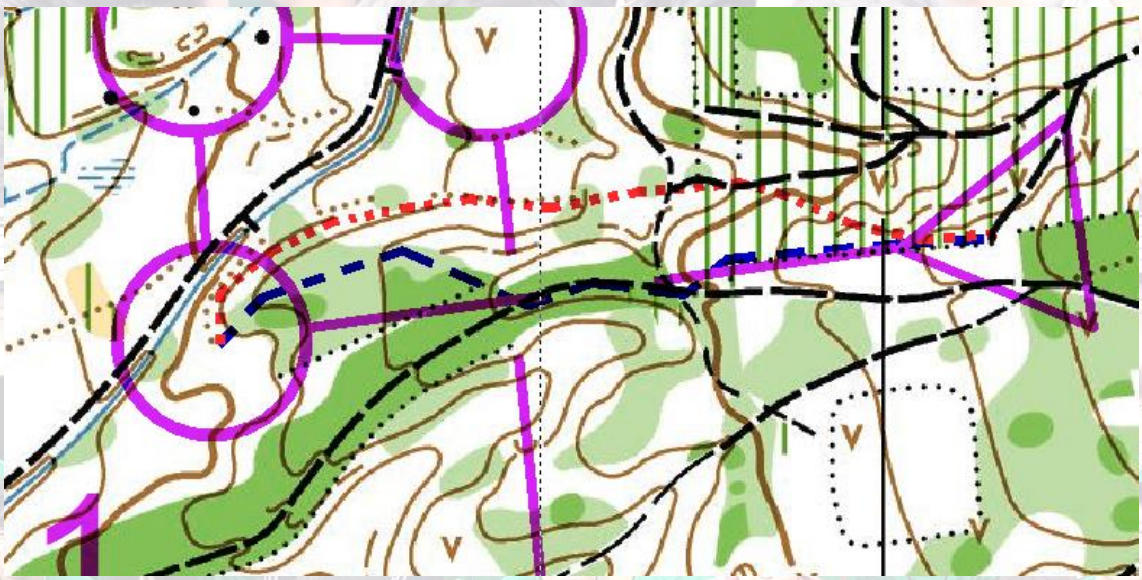
主に勝負を決めるだろうと考えていたレッグが、8→9、9→10、14→15 である。1 位原選手、３位小森選手はこの３レッグを無難にまとめていることが好成績の一因だろう。

レース全体としては、予想を上回るハイレベルなレースとなった。ウイニングタイムを出すために試走させた大学生のタイムが伸びず、また関東 OS 定例会などやや低調な記録となる大会が多く、不安視していたが、高校生達は、しっかりとこの舞台に調整してきたようであった。

勝負を分けたレッグを原選手、祖父江選手のルート及びコース設定者の考えるベストルートと共に解説する。

赤が原選手、青が祖父江選手のルート、黄土色がプランナー想定である。

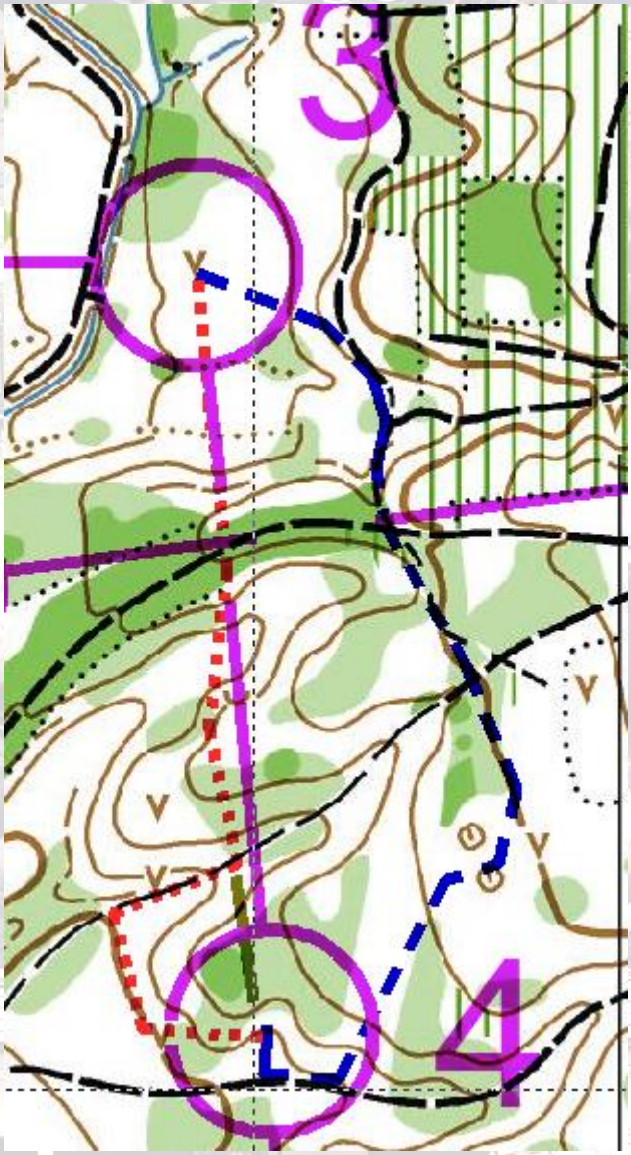
△→1



赤 原選手 3:39　　青 祖父江選手 3:47

赤青ともにプランナー想定ルートであり、２つのルートにほぼ差はないだろう。最初のレッグとして慎重なルート選択と、丁寧に線状特徴物をたどることが求められる。

3→4



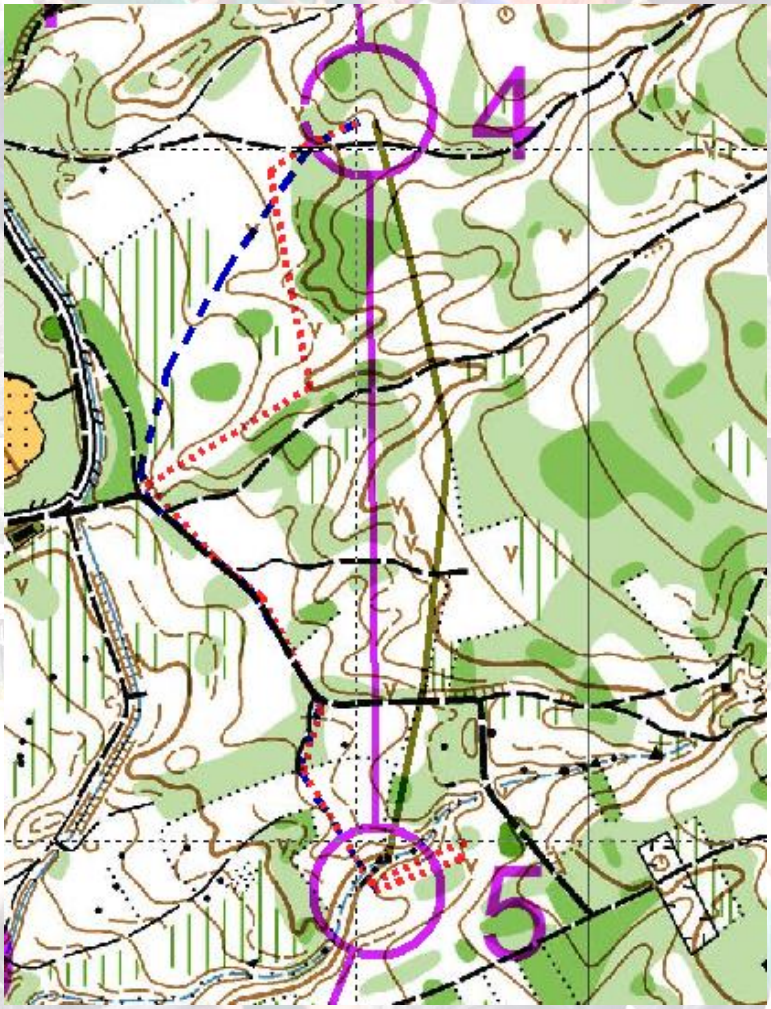
赤　原選手　3:54　1位
青　祖父江選手　5:43　1:42 ミス

序盤のミドルレッグ。真っすぐがベストルート想定。藪を通っても方向を維持し続ける力が必要である。コントロールが尾根を越えた反対側にあるため、原選手のルートのように藪を巻いてアタックしやすい方向を選ぶのもありだろう。

祖父江選手が序盤としては痛い約２分のミスをしている。

4→5

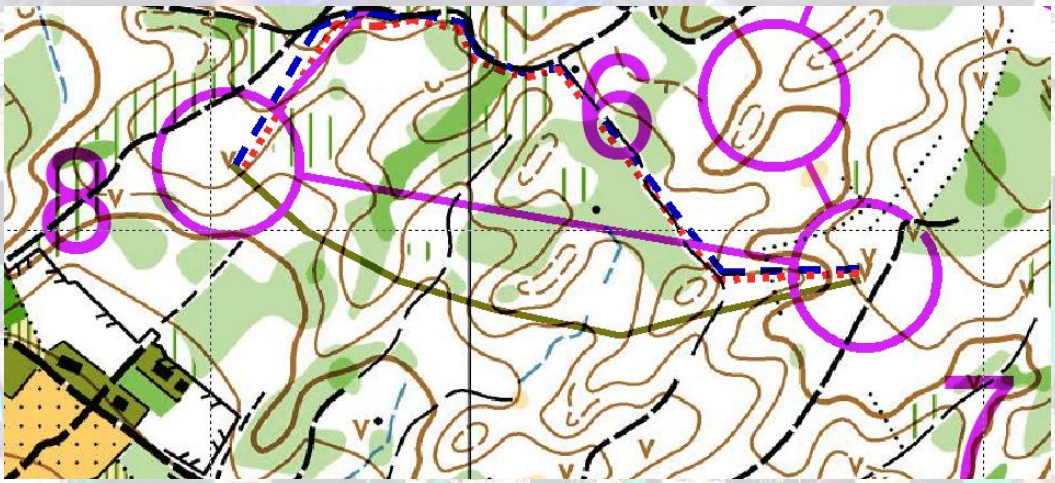
赤　原選手　6:02　1:54 ミス



青　祖父江選手　4:21

プランナー想定のベストルートは左回りの植生界を辿るルートであった。
少ないチェックポイントで線状特徴物を辿り続けるだけであり、ほぼレッグ線に近いルートで、速いスピードを維持できると推測される。
右回りも近くまで道で接近でき、AP の設定が容易であるため、悪くはないだろう。
ただ５ポ付近は富士見特有の下生えが発達していてフラッグが見づらく、丁寧なアタックが求められるレッグであった。

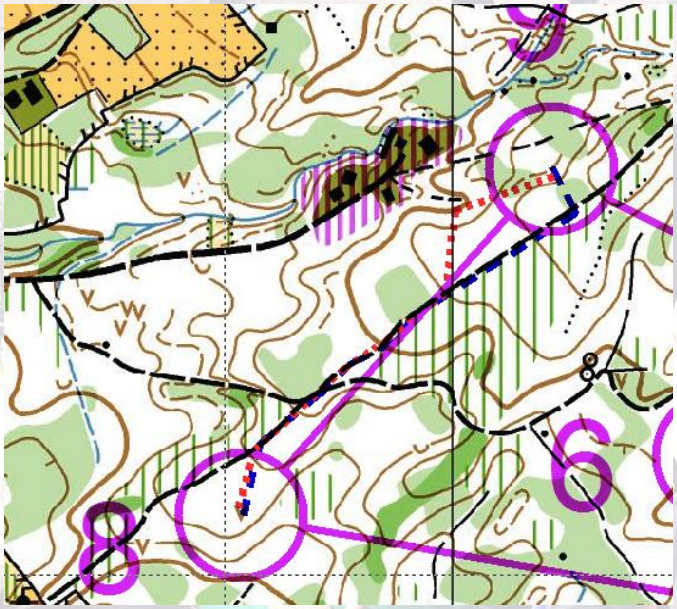
7→8



赤　原選手　3:08　青　祖父江選手　2:55　1 位

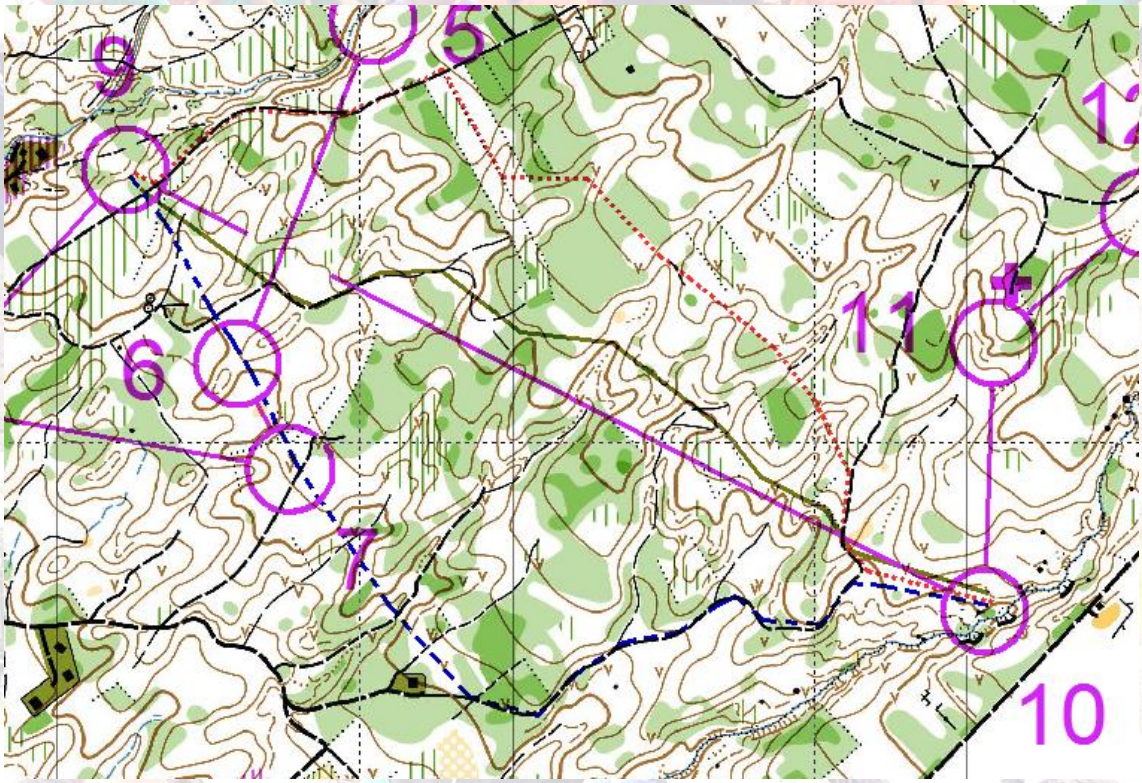
ベストルート想定は試走で 10 秒差ほどで赤青ルートではなく、黄土色ルートであったが、直後に控えるロングレッグのことを考えて、道走りルートを選択し、地図の先読みや、呼吸の安定を図るのも手である。黄土色ルートは見るべきチェックポイントが多く、藪をうまく避けるのも難しいルートである。

8→9



赤　原選手　　2:29　2 位
青　祖父江選手　2:19　1 位
一見道を走るだけのレッグに見えるが、明確なアタックポイントの設定が難しいレッグ。祖父江選手は完璧に決めたが、10 秒差の原選手のように、手前の沢をチェックするとミスは防げる。
このレッグでは小崎選手が 1:54 ミスで痛いロスタイムとなった。

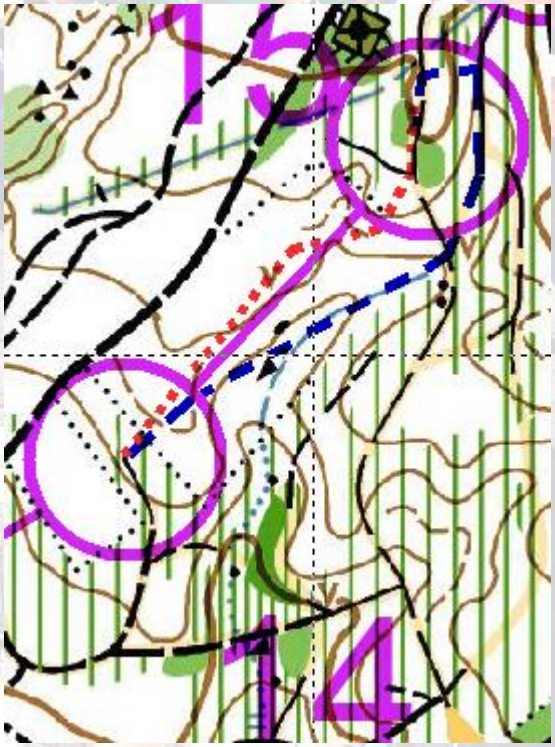
9→10



赤　原選手　10:03　1 位
青　祖父江選手　10:40　2 位

このレース最長レッグにして最高難度の勝負レッグである。
原選手、祖父江選手、小森選手がこのレッグをしっかりまとめた一方、9 ポの中間速報で 1 位だった和佐田選手はここで 3:21 のミスタイムをつけ、4 位に転落した。藪の薄いエリアと道をつなげる祖父江選手のルートと、地図上黄土色ルートがプランナーの想定したルートであり、試走では、黄土色ルートは青色ルートより 2 分速いルートであった。ただし黄土色ルートでは尾根沢を多く越える中で、方向を維持し続け、また道まで出た際しっかりと現在地を確定することなど非常に技術を要するルートである。
高校生には、ぜひもう一度このレッグはどこをチェックポイントにおいてどこを通れば速いかを自分の実力に合わせて、検討してもらいたい。

14→15



赤　原選手　2:23　1位
青　祖父江選手　3:37

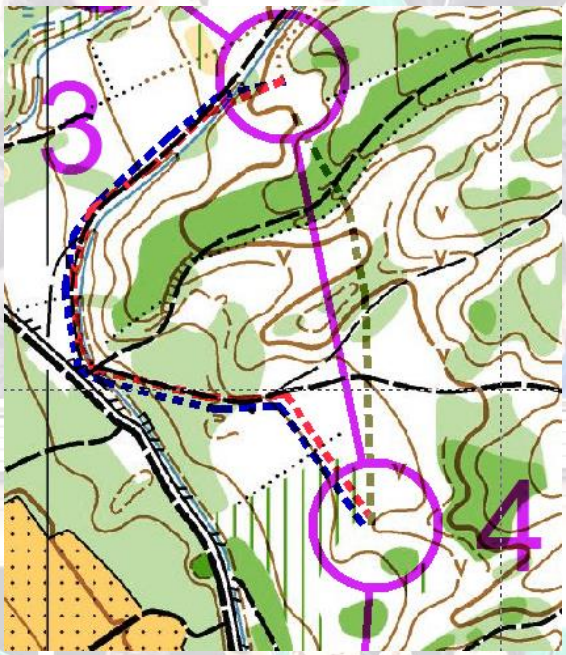
終盤の集中力が切れたところでミスをしやすいレッグ。切り開きは縦ハッチの間にあり植生の発達で見落としやすく、ここでの祖父江選手のミスが、勝負を決めてしまった。
安全なルートは原選手のように手前の沢を捉えるルートだろう。
15 ポの円内西側に、東西に延びる切り開きにエイミングオフするのも、ミスなくこのレッグを切り抜ける手段の一つである。

JME クラス講評

JME のコースコンセプトは、線状特徴物を丁寧に乗り換えること、明確にアタックポイントを設定することができるかを試すことであった。
後半はテレインの制約上非常にタフであり、体力と、疲弊している中でも正確なアタックをし続けることができる精神力が必要である。
5km を越える、中学生としては非常に長いコースでウイニングタイムも厳しめの設定かと思われたが、優勝した森清選手は 3 分ウイニングをやぶり、2 位 3 位もウイニングにせまるタイムであり、中学生の地力を感じさせられた。
また、1 位森清選手、2 位国沢選手はともに、走力に定評のある選手であり、走力に裏付けられた安定した走りが上位進出には必要とわかる。走力の向上のために選手は日々トレーニングを積んでほしい。

以下レッグ解説である。青　1 位の森清選手、赤　2 位の国沢選手、金色はプランナー想定ルートである。

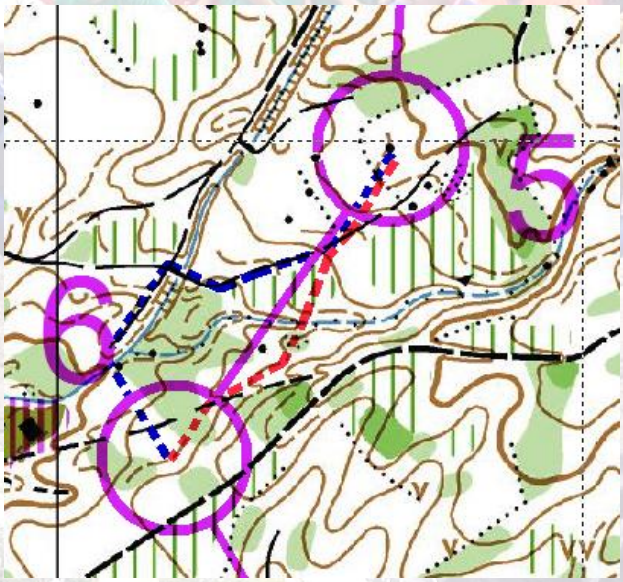
3→4



青　森清選手　2:57　1 位
赤　国沢選手　3:06　2 位

ベストルート想定は藪に負けずに真っすぐ。手前の鞍部をとらえれば、そう難しいルートではない。
道回りは登りにも差はなく、距離に大きな差がでるため、真っすぐルートに挑戦して欲しかった。

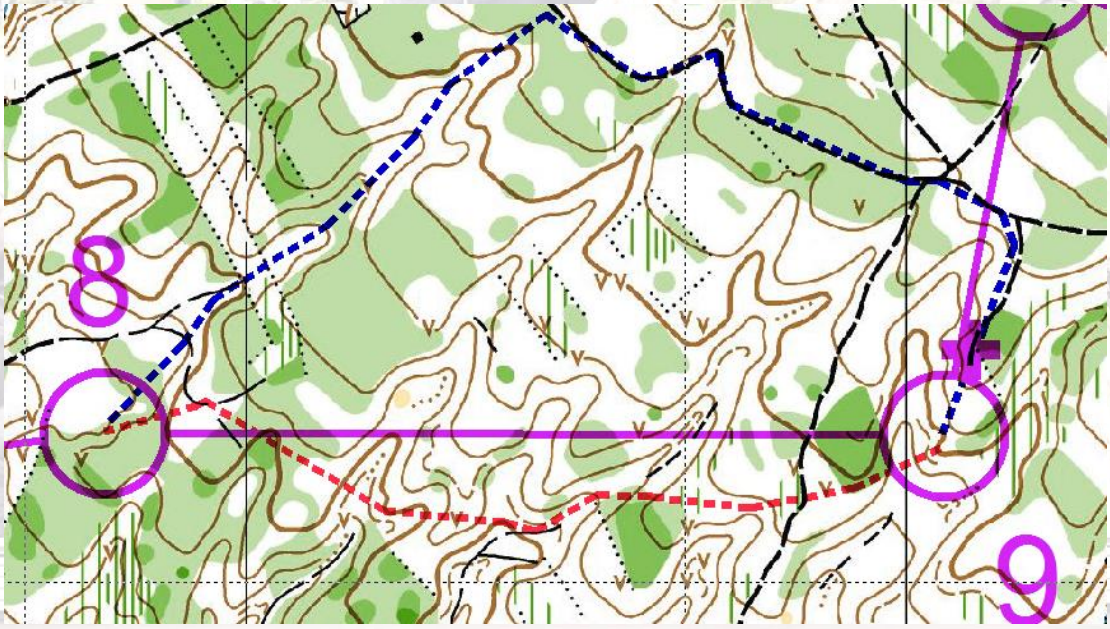
5→6



青　森清選手　2:40
赤　国沢選手　1:52　1位

国沢選手の赤ルートがベストルート。似たような平らな沢が連続しており、早めに水系を横断し、傾斜変換にはりつくのが吉である。
青ルートは水系の横断数も多く得策ではない。
６ポ周辺は植生も発達しており、高さへの意識が重要となる。

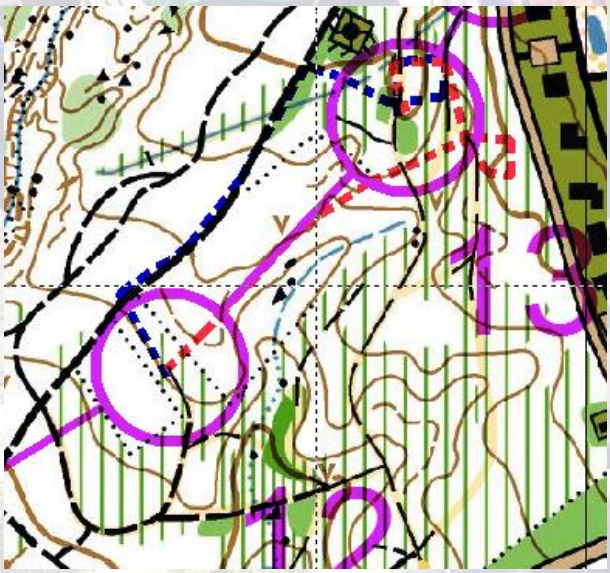
8→9



青　森清選手　6:21　1位　赤　国沢選手　7:03　2位

JME の勝負レッグ。ベストルート想定はほぼ国沢選手ルート。途中２つある C 藪をチェックしてアタックする。ただ非常に方向の維持が難しく、チェックポイント間のスピードをいかに上げられるかがカギとなる。森清選手は思い切ったルートをとり、スピード差で国沢選手に 40 秒差をつけた。
赤ルートと青ルートの間のやや平らなエリアを突き進むのもアリである。
ゆるやかに登り続ける中でスピードを維持できるかが大きな焦点だ。

１２→１３



青　森清選手　3:55
赤　国沢選手　4:37
ME との共通レッグ。詳細は ME のルート解説に。
１位２位ともに大きくミスタイムをつけている。
切り開きを見落とさないかが焦点。

２−２. 団体戦講評

ME クラス

ME 使用エリアは造成により倒木が多く小径が発達しているエリアと、樹木が密集しており、見通しが悪いエリアが中心であった。結果、リレーの高速レースの中で現在地を確定するのが難しく、大きなミスが、勝負を決めることとなった。
隣接ポストも多く、正確なアタックが求められる中で、ミスの応酬の中で、ミスを最低限に抑えた麻布高校の優勝となった。
東海高校との差は主にスピードであり、複雑に交差する道を正確にたどる中で、しっかりと走り続ける力の差が出た。
桐朋高校は１走の出遅れを取り戻そうと焦りがでたのか、本来のレースはできなかったようだ。
足場の悪いエリアであり、不整地への慣れや、強靭な体幹が不可欠であり、数少ない山での練習の中でしっかり経験を積んできた選手が笑うコースであった。

JME クラス

JME 使用エリアのほとんどは見通しはいいが足元は倒木で悪く、小径が複雑に発達しており、スピードは出るが、その中でスピードを落とさず地図を正確に読み続けること、足場の悪いエリアを避けスピードの急減速を防ぐことがカギとなる。
前日個人戦優勝者の森清選手が１走を務める東海中学は先行逃げ切り、麻布中学は、大久保選手が森清選手にできる限り食らいつき、金子選手、折橋選手がいかに追い上げるかが、勝負を決めると思われた。
実際の戦況は１走で 20 分差を森清選手がつける堂々の走り。2 走 3 走も手堅くまとめ、東海中学の優勝となった。麻布中学は 2 走 3 走で大きく追い上げたが、誘導辿り直しなど、もったいないミスが勝負を分ける結果となった。
中学生は例年、チーム数が少ないのもあるが、集団が形成されず、1 走で大きな後れをとってしまうチームが多い。焦るレースではあるが、人の後ろについてゆっくり地図を読み、自分のペースを作るなど、リレーならではのレースの仕方、を経験の中で覚えていってほしいと思う。

２−３．総評

全体的に予想より良いタイム続きで中高生の地力を感じる大会であった。一方で、ルート選択の拙さを感じる場面が多く、練習の中で、あえて難しいルートにチャレンジするなどで、自分はどこまでルート選択の可能性を持てるかを、覚えていって欲しいと思う。

今回好成績の選手には自分らしいオリエンテーリングの形を持っていると感じる。練習のなかでその「自分らしさ」を見つける努力をしてほしい。

個人戦 ME クラス表彰式

団体戦 ME クラス表彰式

３.アンケート集計結果

1.1～2.3

コースの難易度と距離はどうでしたか？

１…易、短い　⇔　５…難、長い

（各セルは人数）

	個人戦 ME	個人戦 JME	個人戦 MS	個人戦 MJ	個人戦 MF	個人戦 JMF	団体戦 ME	団体戦 JME	団体戦 XU	団体戦 OM
難易度 1	0	0	0	0	2	3	1	0	1	1
2	0	1	4	1	1	9	4	2	9	3
3	13	5	13	2	1	10	13	4	15	11
4	6	2	6	3	0	1	2	3	8	1
5	0	0	7	0	0	0	1	1	7	0
距離 1	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0
2	0	0	0	1	2	7	2	3	2	1
3	6	6	13	4	2	11	12	6	22	11
4	7	1	8	0	0	0	4	1	9	4
5	4	0	7	0	0	0	1	0	6	0

3.1 今年度も 9 月開催でよかった

①良かった　②どちらでもない　③よくなかった

選択肢	1	2	3
人数	46	24	20

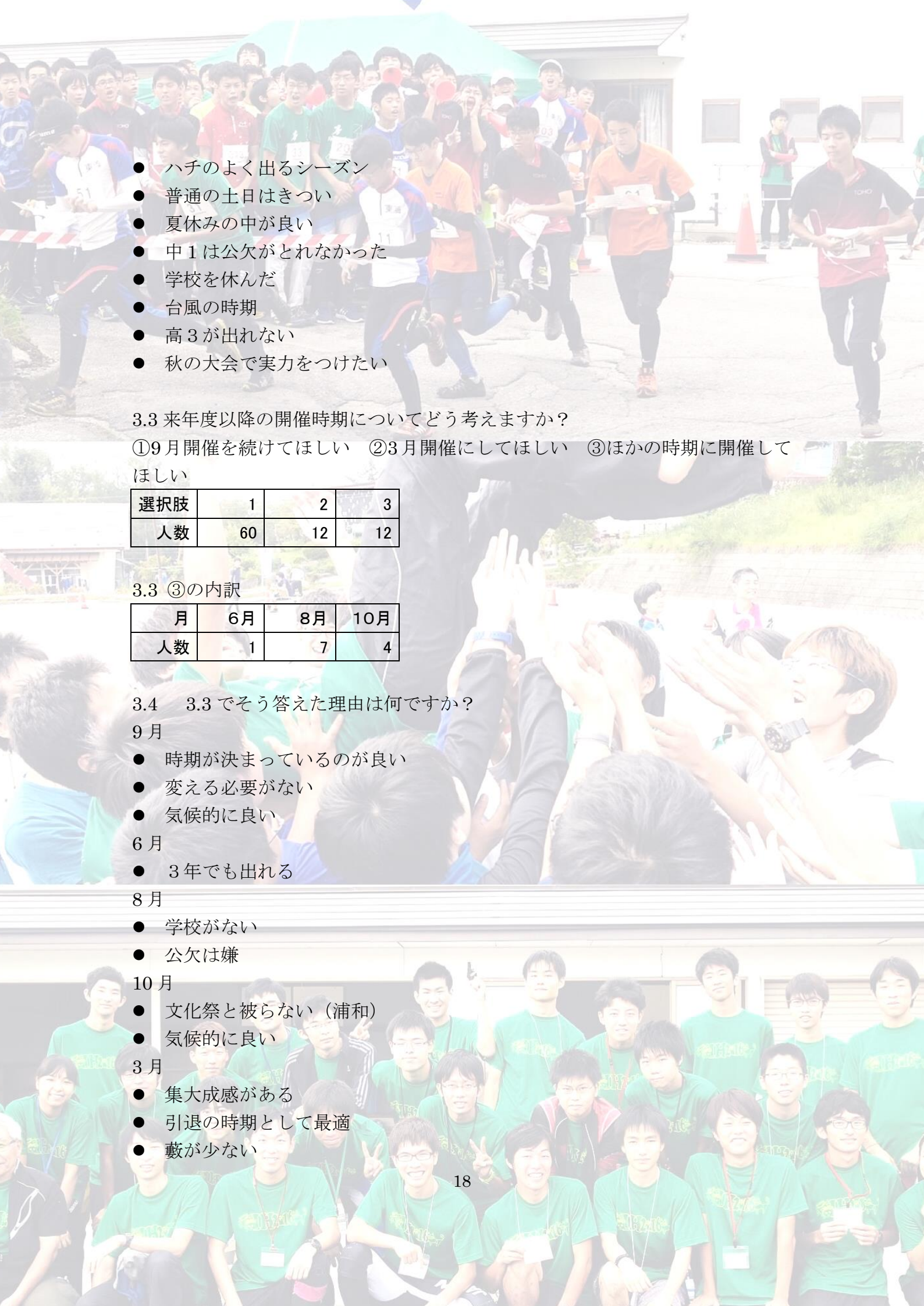
3.2　3.1 でそう答えた理由は何ですか？

良かった

- 受験勉強できる
- 夏休みの成果
- 気候的に良い
- 学校行事がない（桐朋）
- テストより前
- 新学期からの適度な時期

良くなかった

- 文化祭（浦和）
- テスト（東海）



- ハチのよく出るシーズン
- 普通の土日はきつい
- 夏休みの中が良い
- 中１は公欠がとれなかった
- 学校を休んだ
- 台風の時期
- 高３が出れない
- 秋の大会で実力をつけたい

3.3 来年度以降の開催時期についてどう考えますか？
①9 月開催を続けてほしい　②3 月開催にしてほしい　③ほかの時期に開催してほしい

選択肢	1	2	3
人数	60	12	12

3.3 ③の内訳

月	6月	8月	10月
人数	1	7	4

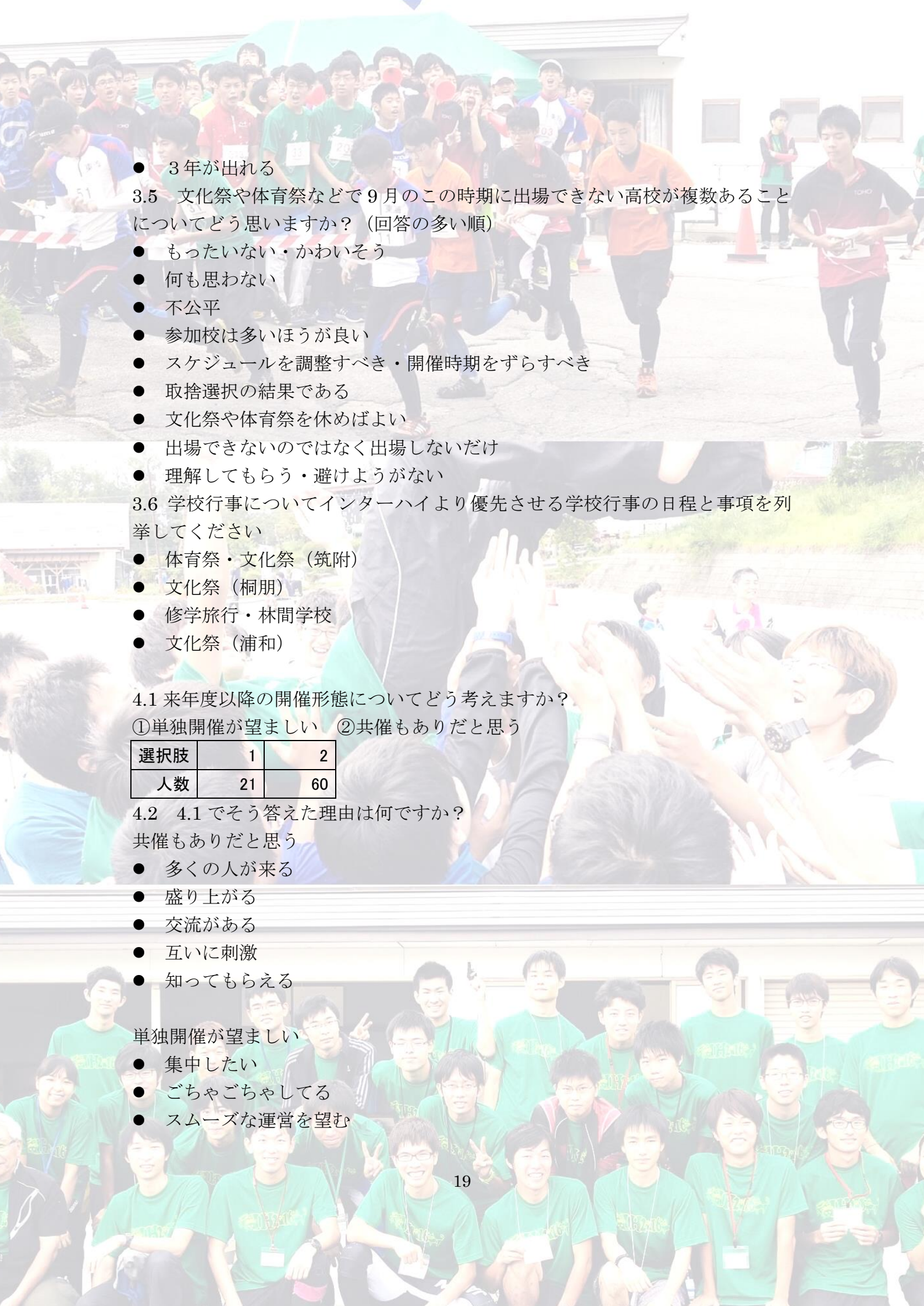
3.4　3.3 でそう答えた理由は何ですか？
9 月
- 時期が決まっているのが良い
- 変える必要がない
- 気候的に良い

6 月
- ３年でも出れる

8 月
- 学校がない
- 公欠は嫌

10 月
- 文化祭と被らない（浦和）
- 気候的に良い

3 月
- 集大成感がある
- 引退の時期として最適
- 藪が少ない



- ３年が出れる

3.5　文化祭や体育祭などで９月のこの時期に出場できない高校が複数あることについてどう思いますか？（回答の多い順）

- もったいない・かわいそう
- 何も思わない
- 不公平
- 参加校は多いほうが良い
- スケジュールを調整すべき・開催時期をずらすべき
- 取捨選択の結果である
- 文化祭や体育祭を休めばよい
- 出場できないのではなく出場しないだけ
- 理解してもらう・避けようがない

3.6 学校行事についてインターハイより優先させる学校行事の日程と事項を列挙してください

- 体育祭・文化祭（筑附）
- 文化祭（桐朋）
- 修学旅行・林間学校
- 文化祭（浦和）

4.1 来年度以降の開催形態についてどう考えますか？
①単独開催が望ましい　②共催もありだと思う

選択肢	1	2
人数	21	60

4.2　4.1 でそう答えた理由は何ですか？
共催もありだと思う

- 多くの人が来る
- 盛り上がる
- 交流がある
- 互いに刺激
- 知ってもらえる

単独開催が望ましい

- 集中したい
- ごちゃごちゃしてる
- スムーズな運営を望む

5.1 部活動は月曜から土曜までで週に何回か？

学校名	回数
麻布	３回
桐朋	４回
浦和	５回以上
東海	３回
筑附	４回
小松川	１回

5.2 月に何 km 程度走っているか

①30km 未満 ②30～50km ③50～75km ④75～100km ⑤100～125km ⑥125～150km ⑦150～175km ⑧175～200km ⑨200km～

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9
人数	10	19	14	7	12	5	7	2	7

5.4 自分の高校以外の競技者と関わる機会はあるか？

①よくある ②たまにある ③ほとんどない ④全くない

選択肢	1	2	3	4
人数	13	37	20	14

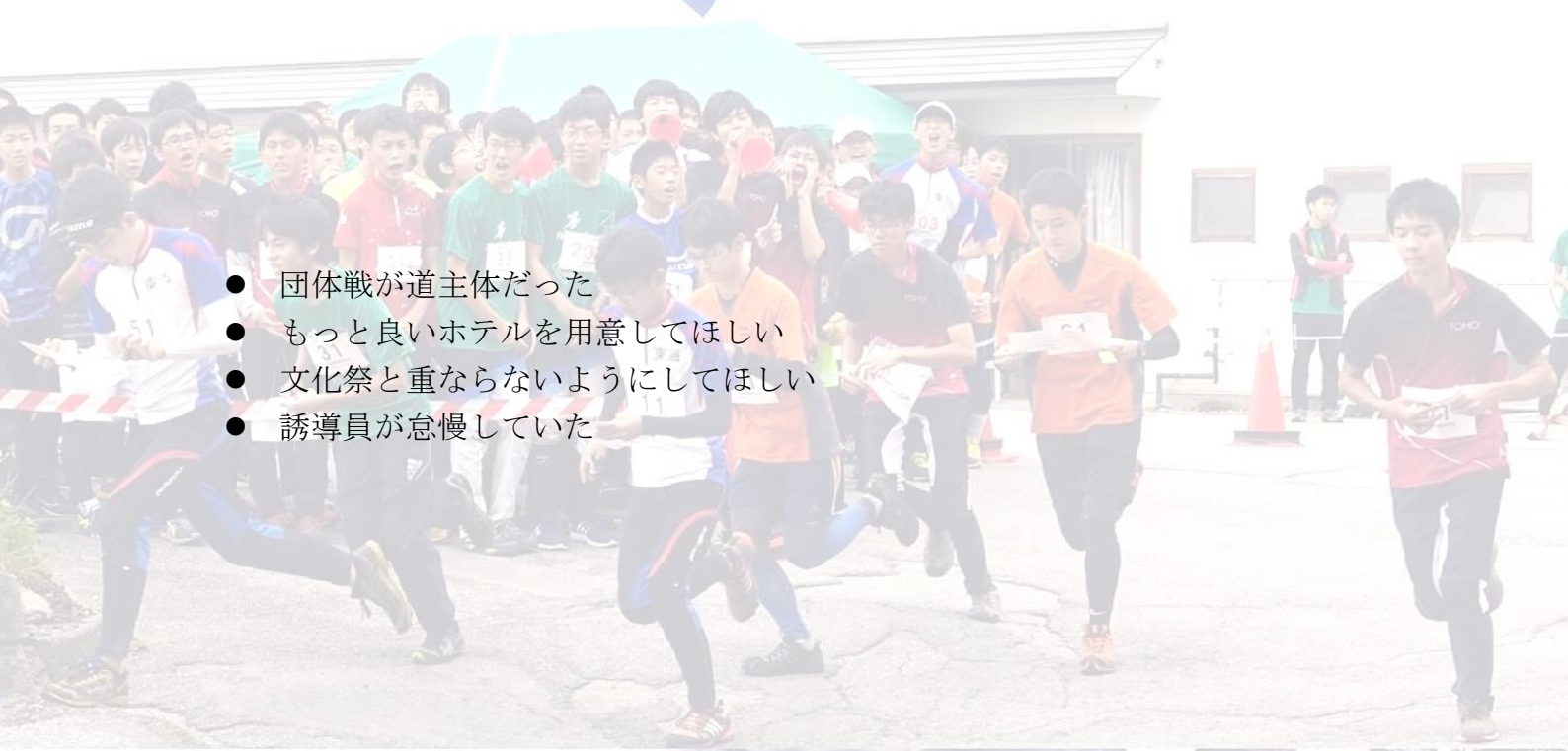
5.5 指導環境は十分であるか？

①十分である ②十分でない

選択肢	1	2
人数	53	32

6.最後に今回や今後のインターハイに関して意見がありましたらお書きください。

- プログラムを早く出してほしい
- 本部に救急道具がなかった
- マイクの調子が悪かった
- メダルの日付が違った
- 団体戦でも陸上競技場を使ってほしかった
- 団体の１→２の誘導をわかりやすくしてほしい
- テレインが関東寄りの年が多い
- ハチの情報を詳しく欲しかった



- 団体戦が道主体だった
- もっと良いホテルを用意してほしい
- 文化祭と重ならないようにしてほしい
- 誘導員が怠慢していた

４. 公式成績表

個人戦（いずれも順位, 氏名, タイム, 所属の順に明記。赤字は入賞者）

ME クラス（高校生選手権クラス）			
1	原　万尋	0:55:42	桐朋高等学校２年
2	祖父江　有祐	0:57:04	東海高校１年
3	小森　直人	0:58:11	桐朋高等学校２年
4	和佐田　祥太朗	1:02:18	東海高校３年
5	小崎　舜真	1:07:27	麻布高校２年
6	岡嶋　隆太	1:07:57	東海高校２年
7	長澤　徳英	1:08:52	麻布高校２年
8	石田　倫啓	1:09:06	東海高校２年
9	宮嶋　大輔	1:10:33	東海高校２年
10	横山　一石	1:10:37	麻布高校２年
11	梅本　航聖	1:10:54	東海高校２年
12	佐藤　隆	1:12:08	桐朋高等学校１年
13	服部　柾宏	1:13:47	東海高校１年
14	都甲　泰弘	1:26:17	桐朋高等学校１年
15	田中　達樹	1:35:49	桐朋高等学校２年
16	市川　智基	1:38:33	麻布高校１年
17	根岸　龍宏	1:39:59	麻布高校１年
18	小林　直登	1:41:05	桐朋高等学校２年
19	友田　賢吾	1:47:10	桐朋高等学校２年
20	髙橋　忠大	1:53:37	浦和高校２年
21	田村　尚也	2:03:40	東海高校１年
	根岸　健仁	DISQ	麻布高校１年

JME クラス（中学生選手権クラス）			
1	森清　星也	0:47:16	東海中学校３年
2	国沢　琉	0:51:07	筑附中２年
3	折橋　旺	0:53:23	麻布中学３年
4	金子　隼人	0:59:17	麻布中学３年
5	片岡　勇仁	1:01:56	東海中学校２年

6	園部　仁士	1:05:52	桐朋中学校３年
7	石神　孝樹	1:11:52	東海中学校２年
8	迫田　勝太	1:19:20	桐朋中学校３年
9	寺嶋　謙一郎	1:24:10	小松川第二中学校１年
10	福井　陽貴	1:40:02	加西中学校１年
11	高橋　宏太郎	1:47:28	桐朋中学校３年
12	岡崎　盛	2:11:15	岡山白陵中学校２年
13	大久保　寧雄	2:18:14	麻布中学３年
	久保木　航	DISQ	麻布中学３年

MS クラス			
1	羽田　拓真	0:58:32	東海高校１年
2	齋藤　佳大	1:00:51	浦和高校１年
3	中川　豪	1:04:30	東海高校１年
4	成松　陽	1:06:19	浦和高校２年
5	中村　諒	1:07:13	桐朋高等学校２年
6	須藤　佑介	1:08:11	浦和高校２年
7	烏野　祐作	1:12:44	浦和高校２年
8	久保田　宙志	1:14:32	浦和高校２年
9	宮谷　飛王	1:16:28	麻布高校１年
10	山崎　大聖	1:18:00	麻布高校１年
11	馬場　啓	1:18:15	麻布高校２年
12	久下　貴嗣	1:21:55	浦和高校２年
13	田村　太陽	1:24:40	浦和高校１年
14	平井　啓裕	1:24:50	麻布高校１年
15	熊倉　幸大	1:25:44	浦和高校２年
16	塩田　拓輝	1:26:14	麻布高校１年
17	満山　怜音	1:30:01	浦和高校２年
18	西田　浩希	1:31:38	桐朋高等学校２年
19	宮腰　敦	1:31:46	浦和高校１年
20	吉澤　秀郁	1:32:41	浦和高校２年
21	伊藤　多朗	1:37:36	浦和高校１年
22	安江　将貴	1:46:23	浦和高校１年
23	津田　泰裕	1:49:08	麻布高校１年

24	由木　孝尚	1:59:13	浦和高校２年
	下鳥　翔平	2:04:19	浦和高校１年
	植木　誠	2:16:18	浦和高校１年
	真下　宙樹	DISQ	浦和高校１年
	猪股　正裕	DISQ	浦和高校１年
	関口　洋平	DISQ	桐朋高等学校１年
	古賀　剛司	DISQ	麻布高校１年
	田中　寛紀	DISQ	浦和高校１年

MJ クラス			
1	竹島　雅文	0:31:52	東海中学校２年
2	岩味　桜祐	0:38:02	東海中学校３年
3	深石　大	0:41:33	東海中学校２年
4	渡部　司	0:43:07	麻布中学３年
5	山見　泰輝	0:44:11	麻布中学２年
6	神田　武瑛	0:55:05	桐朋中学校３年
7	安原　佳祐	1:19:35	桐朋中学校３年
8	千坂　美瑞希	1:39:56	麻布中学３年
9	細野　陸	1:49:01	桐朋中学校２年
	細谷　崇文	2:00:20	桐朋中学校２年
	横瀬　紀	2:07:05	桐朋中学校２年

MF クラス			
1	大木　翔太郎	0:28:53	桐朋高等学校１年
2	外山　隼也	0:30:56	桐朋高等学校１年
3	君島　健太	0:33:29	桐朋高等学校１年
4	井上　拓紀	1:17:40	桐朋高等学校１年
5	吉野　達也	1:18:33	桐朋高等学校１年

JMF クラス			
1	中村　晃	0:23:18	東海中学校１年
2	屋敷　龍吾	0:24:38	桐朋中学校１年

3	早川　正真	0:26:00	東海中学校１年
4	西河　伶	0:26:24	麻布中学３年
5	山本　克拓	0:27:35	桐朋中学校１年
6	須藤　優人	0:28:08	桐朋中学校１年
7	中野渡　康太朗	0:29:52	桐朋中学校２年
8	金子　泰樹	0:31:01	桐朋中学校１年
9	青木　祐人	0:33:29	桐朋中学校２年
10	伊藤　悠真	0:34:28	桐朋中学校１年
11	富田　暁	0:34:33	桐朋中学校２年
12	森　創之介	0:35:27	東海中学校１年
13	塩野　遼介	0:35:40	桐朋中学校２年
14	柴田　日向	0:36:14	桐朋中学校１年
15	一力　直太郎	0:37:34	桐朋中学校１年
16	小路　仁和	0:39:38	桐朋中学校２年
17	楠　義矢	0:41:01	桐朋中学校１年
18	森本　裕冴	0:41:45	桐朋中学校２年
19	八木　智寛	0:41:47	桐朋中学校１年
20	小林　幸太郎	0:43:34	桐朋中学校２年
21	吉田　健人	0:44:44	桐朋中学校３年
22	関谷　祐生	0:50:03	桐朋中学校２年
23	木下　修吾	1:02:10	桐朋中学校１年
	奥村　尚史	DISQ	桐朋中学校１年

AL クラス		
1	細川知希	0:46:09
2	堀田遼	0:51:57
3	糸賀翔大	0:52:15
4	前田悠作	0:54:39
5	南河駿	0:54:55
6	柴沼健	0:55:16
7	深田恒	0:57:34
8	栗本開	0:58:19
9	樋口佳祐	0:58:45
10	篠原　岳夫	0:59:06

11	嶋岡雅浩	0:59:57
12	前田裕太	1:00:12
13	橋本知明	1:00:17
14	小泉知貴	1:00:20
15	菅谷裕志	1:00:28
16	岡遼汰郎	1:01:12
17	田中基成	1:01:18
17	菅野柊斗	1:01:18
19	木島佑輔	1:01:39
20	築地孝和	1:02:30
21	井倉幹大	1:03:25
22	蔵田真彦	1:03:58
23	岩瀬史明	1:04:21
24	石野夏幹	1:05:26
25	前野達也	1:05:29
26	是永大地	1:06:10
27	田口茂樹	1:06:58
28	阿部稜	1:07:13
29	田代雅之	1:09:39
30	小柏景司	1:09:51
30	稲吉勇人	1:09:51
32	瀬川出	1:10:59
33	横堀聖人	1:11:32
34	村井智也	1:12:34
35	谷口文弥	1:13:03
36	福田雅秀	1:13:28
37	秋山周平	1:13:32
38	伊藤夏生	1:14:12
39	大井真	1:15:30
40	堀江優貴	1:17:38
41	東将央	1:23:02
42	千葉妙	1:26:03
43	岩城大行	1:29:38
44	石神愛海	1:30:22
45	松島彩夏	1:32:38

46	木村耕平	1:33:56
47	PETER WIESINGER	1:34:58
48	町井稔	1:35:39
49	増田七彩	1:37:00
50	中丸祝子	1:39:27
51	細正隆	1:48:44
52	高田和樹	1:49:15
53	上島浩平	1:50:17
54	坪居大介	1:52:40
55	田中圭	1:54:18
56	西田成佑	1:55:38
	佐々木裕之	2:01:34
	立川大輝	2:12:53
	浜野奎	2:13:29
	久保田皓貴	2:31:38
	三浦やよい	2:38:00
	櫻井彩菜	3:30:36
	鹿野勘次	DISQ
	小山清	DISQ
	山口雅裕	DISQ
	上妻紅音	DISQ
	渡辺鷹志	DISQ
	田中悠	DISQ
	小村彩葵	DISQ
	森田櫻織	DISQ
	成澤春菜	DISQ
	石山良太	DISQ
	横田智也	DISQ

AS クラス		
1	林　千尋	0:49:22
2	木村 佳司	0:53:50
3	寺嶋一樹	0:56:29
4	奥山景得	0:58:23

5	大林俊彦	0:59:34
6	土田聡史	1:00:49
7	小林二郎	1:02:08
8	大塚校市	1:02:45
9	愛場庸雅	1:03:40
10	小倉　秀一	1:11:49
11	宍戸 裕司	1:13:34
12	寺嶋貴美江	1:13:37
13	清水　善博	1:13:59
14	緒方賢史	1:14:09
15	吉澤 佳奈	1:20:04
16	藤原　三郎	1:21:44
17	井口良範	1:22:35
18	千葉史子	1:25:25
19	福井直樹	1:26:55
20	小幡昭次	1:28:28
21	岡野英雄	1:29:55
22	前田洋	1:34:14
23	下村淳子	1:55:40
	植松　彩	2:03:33
	植木国勝	2:38:01
	平松夕衣	2:53:50
	和田あゆみ	2:59:07
	久野公愛	DISQ

Bクラス		
1	岡崎浩	1:01:33
2	大塚ふみ子	1:02:24
3	緒方美智	1:03:21
4	高橋厚	1:04:52
5	土屋　武	1:16:30

Lクラス		
1	伊藤和生	0:44:11
2	伊藤万実子/拓生	1:01:49

団体戦（MEクラスのみ）

MEクラス（走順は左から１走，２走，３走）

1	麻布ME-A	（横山　一石，小崎　舜真，長澤　徳英）
2	東海ME-A	（岡嶋　隆太，祖父江　友祐，梅本　航聖）
3	桐朋ME-A	（田中　達樹，小森　直人，原　万尋）
4	浦和ME-A	（髙橋　忠大，烏野　祐作，成松　陽）
5	東海ME-B	（宮嶋　大輔，田村　尚也，石田　倫啓）
6	桐朋ME-B	（友田　賢吾，小林　直登，佐藤　隆）
7	麻布ME-B	（根岸　健仁，市川　智基，山崎　大聖）
8	浦和ME-B	（須藤　佑介，久下　貴嗣，久保田　宙志）

５.大会役員

責任者・担当一覧

実行委員長 吉澤 雄大
競技責任者・コース設定者　佐藤 遼平
運営責任者 晝間 悠生
渉外責任者 坂梨 敬哉
広報責任者 大田 将司
会計責任者 長井 健太
個人戦選手権スタートパートチーフ 瀧澤 修人
個人戦併設・選手権スタートパートチーフ 角田 貴大
個人戦選手権・団体戦フィニッシュパートチーフ 大田 将司
個人戦併設フィニッシュパートチーフ 平原 誉士
会場パートチーフ 吉澤 雄大
計センパートチーフ　坂野 翔哉
個人戦給水救護パートチーフ 大久保 雄真
団体戦給水救護パートチーフ 二村 真司
T シャツ担当　山岸 夏希
選手権コントローラー　高村 卓
イベント・アドバイザー 戸上 直哉

当日の運営者配置　（カッコ内は大学と学年）

＜個人戦＞
・会場・演出・選手権フィニッシュ
吉澤雄大（慶應 3）　佐藤遼平（東京 2）　晝間悠生（慶應 2）
大田将司（一橋 2）　長井健太（東京農工 2）　高村卓（上尾 OL クラブ）
戸上直哉（東京工業 卒）

・交通・会場
佐野萌子（京都女子 2）　村田茉奈美（フェリス 2）

・計セン
坂野翔哉（東京理科 3）　和田康次郎（慶應 3）　山川登（東京 1）

・競技
坂梨敬哉（慶應 3）　森田夏水（早稲田 1）　西村直哉（早稲田 1）

・選手権スタート
瀧澤修人（一橋 3）

・選手権隔離・誘導・スタート
澤田潤（名古屋 3）　比企野純一（東京 1）

・併設スタート
角田貴大（横浜市立 3）　山岸夏希（筑波 2）　松本萌希（京都 2）
稲森剛（横浜国立 2）　二村真司（京都 2）

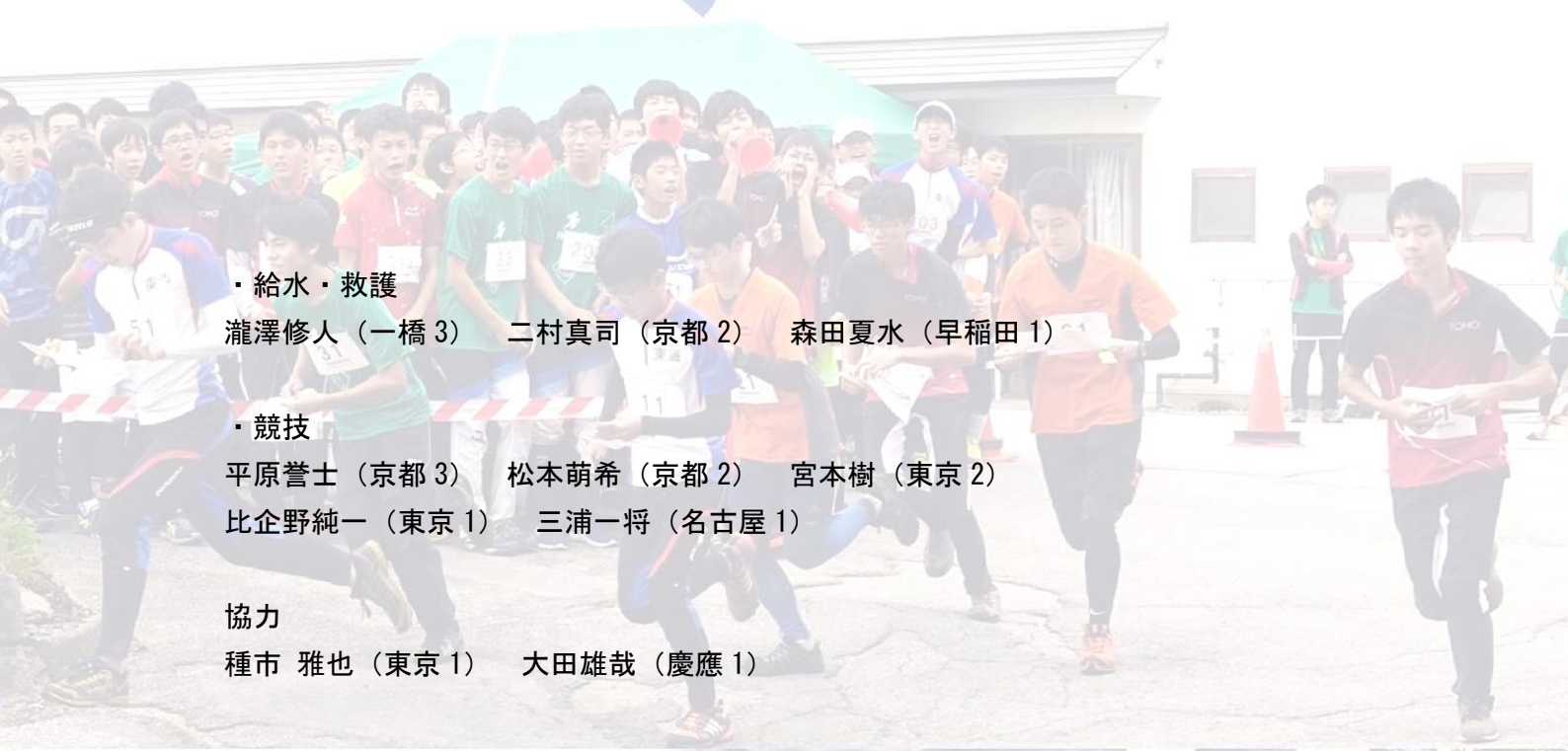
・併設フィニッシュ
平原誉士（京都 3）　宮本樹（東京 2）　三浦一将（名古屋 1）

･給水救護
大久保雄真（東京工業 2）　長谷川望（早稲田 1）

＜団体戦＞
・会場・スタート・
吉澤雄大（慶應 3）　佐藤遼平（東京 2）　晝間悠生（慶應 2）
坂梨敬哉（慶應 3）　長井健太（東京農工 2）　澤田潤（名古屋 3）
山岸夏希（筑波 2）　佐野萌子（京都女子 2）　村田茉奈美（フェリス 2）
角田貴大（横浜市立 3）　北川賢也（横浜市立 2）　稲森剛（横浜国立 2）
高村卓（上尾 OL クラブ）　戸上直哉（東京工業 卒）

・計セン
坂野翔哉（東京理科 3）　和田康次郎（慶應 3）　山川登（東京 1）

・フィニッシュ
大田将司（一橋 2）　西村直哉（早稲田 1）　長谷川望（早稲田 1）
大久保雄真（東京工業 2）



・給水・救護

瀧澤修人（一橋 3）　二村真司（京都 2）　森田夏水（早稲田 1）

・競技

平原誉士（京都 3）　松本萌希（京都 2）　宮本樹（東京 2）

比企野純一（東京 1）　三浦一将（名古屋 1）

協力

種市 雅也（東京 1）　大田雄哉（慶應 1）

（報告書　終わり）

ご参加ありがとうございました！

また来年どこかでインターハイは続きます！

Train hard, Win easy.

It’s all about Orienteering!